2019年3月30日

はくあい

社会医療法人博愛会10周年
東棟リニューアルオープン記念号

病院理念

1．博愛と信頼　　2．地域と共に　　3．高度な医療

患者憲章

患者さまには、以下の権利と義務があります。

思いやりのある医療を平等に受ける権利
一人一人に最適な医療を受ける権利
病状・治療の充分な説明を受ける権利
他の医師や医療機関に相談する権利
治療方針をみずから決定する権利
個人情報や診療の秘密が守られる権利
診療環境の秩序を守る義務

基本方針

1．「いつでも」「どこでも」「だれでも」をモットーに、救急医療から在宅医療まで、包括的な医療サービスを提供します。
2．近隣の医療保健施設と連携し、地域の医療レベルの向上、人々の健康の増進に貢献します。
3．常に医療技術の研鑽に努めるとともに、人間性を高め、高度で人間味のあるチーム医療を展開します。
4．施設と設備の整備に努め、安全で効率的な診療環境をつくります。
5．健全で透明性の高い経営に努め、活力に満ちた病院機能を維持します。

社会医療法人要件

主要４疾患対応：がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病
公的医療５事業：救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療

菅間記念病院は夜も眠らない

はくあい

社会医療法人博愛会10周年
東棟リニューアルオープン記念号

CONTENTS

博愛会の施設	2
ご　挨　拶	4
10年のあゆみ	5～9
新人事	10～12
新院長ご挨拶	10
名誉院長ご挨拶	11
新看護部長ご挨拶	12
東棟リニューアル	13～16
菅間在宅診療所開設にあたって	14
在宅総合ケアセンターが変わります！	15
子育て支援と在宅療養支援	16
データで見る博愛会	17
ウェルネスNASPA II	19
ぴんぴんアカデミー	20

❶菅間記念病院

❷在宅総合ケアセンター

❸那須塩原クリニック

❶菅間記念病院 中央棟

TEL 0287-62-0733

■東棟

- ぴんぴんアカデミー　TEL 0287-73-5931
- 病児保育　TEL 0287-73-5939
- ほほえみ訪問看護ステーション　TEL 0287-63-5690
- 菅間在宅診療所　TEL 0287-73-5934
- ウェルネス NASPA Ⅱ　TEL 0287-73-5936

社会医療法人 博愛会

❹那須看護専門学校

❺ウェルネス NASPA

❷在宅総合ケアセンター　TEL 0287-62-3311
❸那須塩原クリニック　TEL 0287-67-1570
❹那須看護専門学校　TEL 0287-67-1188
❺ウェルネス NASPA　TEL 0287-67-1577

社会医療法人博愛会
理事長代行
菅間 博

社会医療法人博愛会
理事長
山崎 範子

社会医療法人としての此れまでと此れから

平成31年に、博愛会は社会医療法人移行して10周年を迎えました。バブルの真最中の平成元年、先代の菅間恒は病院名を「那須野が原菅間病院」に改称し、約20億円を投じて東棟を建設しました。その後バブルが崩壊し、病院経営は厳しい時代に入りました。私は平成10年から病院経営に関わり、“地域から信頼される病院”を目指して体制整備を進めました。平成14年に個人の持ち分を放棄し特定医療法人に移行しました。病院名を「菅間記念病院」に再改称し、院長に鈴木正徳先生を迎えました。平成15年に南棟、平成18年に在宅総合ケアセンター、平成20年に那須塩原クリニックを建設しました。当時は小泉政権下で、医療崩壊が叫ばれ赤字の公立病院の代替法人として社会医療法人が制度化されました。博愛会が目指す病院像に社会医療法人が合致したため、平成21年1月に関東で初めて移行しました。

社会医療法人の認定要件は、非採算となり易い“救急医療、周産期医療、災害時医療等”の公益医療を行うこと、地域医療計画上に“がん、心筋梗塞、脳卒中、糖尿病等”の医療を担っていることが記されていることです。社会医療法人は、公立・公的病院と行政上や税法上は同等でありません。それでも要件の医療を行うには、効率的に病院を運営する経営力が必要となります。また栃木県北地域で病院経営するには、医療従事者の確保が大きな問題です。特に看護師不足が深刻だったため、平成24年に、那須看護専門学校を非採算覚悟で開校しました。既に150人を超える看護師が卒業しています。社会医療法人移行後も病院の経営状態は良好で、平成27年に政策投資銀行からビジョナリーホスピタルの認定を受け、同年10月に、様々な施設、設備を備えた新病院棟（中央棟）を建設しました。長らく地域になかった産婦人科を開設しました。今は年間250件の出産があり、少子化対策に大きく貢献しています。また此れまでで、3度の病院機能評価を受け、病院機能の向上が図られました。

今年5月には新天皇が即位し、平成が終わります。菅間記念病院は、平成の30年間使った東棟をリニューアルします。在宅医療後方支援病棟を整備し、在宅医療センター（在宅診療所と訪問看護ステーション）、介護予防センター“ぴんぴんアカデミー”、病児保育所、NASPAⅡを開設します。高齢化時代に対応すべく、介護から急性期医療まで連続したケアミックス体制を構築します。もちろん社会医療法人としての医療、がんや糖尿病の医療、心筋梗塞や脳卒中に対応した救急医療、周産期医療ならびに災害時医療も拡充していきます。今後は医療に、AIやロボット、遺伝子検査に基づく最適化医療が導入されます。イノベーションへの対応も図りながら、社会医療法人として、病院経営を続けていけば、“地域からより信頼される病院”になると考えています。

社会医療法人 博愛会

10年のあゆみ

2009年　2010年　2011年　2012年

4月29日

菅間恒会長
瑞宝小綬章受章

4月1日
小児科常勤医着任

3月11日

東日本大震災、計画停電対応、被災者支援

4月1日
DPC（包括医療支払制度）移行

1月1日

「社会医療法人」認可

関東初、全国で17番目

社会医療法人とは、2007年4月より施行された新しい制度で、地域に必要な救急医療等を安定的に提供するために、公立病院を補完するような民間病院を認定する制度です。

医療充実 誓い新たに

地域連携 さらに強化へ

12月14日

ヤマザキショップ
菅間記念病院店オープン
（現 ニューヤマザキデイリーストア
菅間記念病院中央棟店）

4月1日

那須看護専門学校開校

県北地域への看護師供給を目指した那須看護専門学校の開設

博愛会が社会医療法人となってからの一大事業が那須看護専門学校の新規開設でした。医療環境の向上には看護師の育成が欠かせませんが、県北地域には国際医療福祉大学看護学部と塩谷看護専門学校があるだけで、とても地域の医療機関の需要に応えられる状況にはありません。2012年4月に、44名の新入生を迎えて本校が開校して以来、8年間に276名の入学者を迎え入れ、168名の卒業生を送り出すことができました。ことに昨年の第107回看護師国家試験では、37名の卒業生全員が合格するという快挙を成し遂げました。本校から巣立った168名の看護師は、菅間記念病院や那須赤十字病院をはじめとする県北医療機関への就職率が68%を超えており、県北地域へ優秀な看護師を供給するという本校の開設理念は、地域社会に貢献する事業に発展しています。

那須看護専門学校長　上川 雄一郎

2013 年　2014 年　　2015 年

3 月 19 日

創立 50 周年を迎える

1 月 1 日

「DBJ ビジョナリーホスピタル」認定

新病棟の LED 照明・中水利用・屋上ヘリポートなど設備面の評価に加え、職員全体で取り組んでいる「東日本大震災での経験を踏まえた防災計画」が高く評価され、国の政策金融機関ＤＢＪ（Development Bank of Japan Inc.　株式会社日本政策投資銀行）より、環境配慮・防災および事業継続対策に優れた病院「DBJ ビジョナリーホスピタル」に認定されました。

3 月 30 日

新病院棟（中央棟）オープン

屋上にヘリポートを配置

4 月 1 日

博愛会職員寮完成

10年のあゆみ

社会医療法人 博愛会

2015年

5月12日

女性診療科・産科新設

9月1日

那須塩原市「ゆーバス」
乗り入れ開始

2016年

1月1日
乳腺外科常勤医師着任

6月1日
耳鼻咽喉科診療開始

6月3日

病院機能評価(3rdG:Ver.1.0〜)認定

病院機能評価とは、(財)日本医療機能評価機構による第三者評価で、病院の現状と問題点を明確にし、評価基準を満たした病院に認定証が発行されます。診療体制、治療内容、病院及び地域医療機関との連携、職員教育・施設・設備等が充分に整い、全国的に高い水準にあることを示す証となります。

10年には及ばぬとも 女性診療科・産科の思い出

女性診療科・産科は2015年5月に開設されましたが、無の状態から始まったこともあり、患者がいないことはもちろん、分娩や婦人科手術に関わったことのないスタッフも多く、婦人科手術の器材を物珍しく見るスタッフや、一件の分娩が一大イベントのように盛り上がるスタッフの姿は何ともおかしくもあり不安にもなりました。あれから4年、スタッフはエキスパートとして頼れる存在になり、今や病院内で若い女性や子供の姿があることがごく普通の光景となりました。高齢者の患者が多かったこの病院に新しい風が吹いたのです。小児科の助けも加わり、地域の健康を守る役割を持つこの病院がカバーできる年齢層を広げることが出来たのは本当に素晴らしいことだと思います。これから5年後、まさに開設10年の際には、地域にとってなくてはならない存在になったといえるよう更にがんばっていこうと思います。

産科　和地 祐一

乳腺外科になくてはならない〇〇

乳腺外科にとってなくてはならないものといえば、

一. きれいなマンモグラフィーを撮ってくださる女性放射線科技師
二. 的確に病変を見つけ出す女性超音波技師
三. 外来、病棟、手術で細やかにサポートしてくださる看護師
四. 化学療法のサポートでは薬剤師の先生

そして、診察室の相棒は、直径5 mm の癌も見逃さない、2年前導入の超音波装置アリエッタ60。

まだまだおられます。

乳がん患者会ブレストサロン那須のメンバーの方々、いつもご参加ありがとうございます。

それからそれから、小児科医の先生には、同伴のお母様方に乳がん検診のポケットテッシュをお渡しいただいたり、産科外来では“プロポーズされたら乳がん検診、ママになったら乳がん検診”のキャッチフレーズを流行らせていただいたり……。このスペースには書ききれないたくさんの方々のご協力をいただきながら、乳腺外科は今日もがんばっています。

乳腺外科　屋代 祥子

2017年　　2018年

2月28日

災害時医療支援チーム
（K-DMAT）発足

K-DMAT：博愛会の災害医療チーム愛称
AMAT：全日本病院協会の医療支援班
DMAT：厚労省・県が認定する医療チーム

6月1日
介護福祉士実務者研修校開校

9月1日
小児科二次救急輪番を再開

3月26日
那須看護専門学校、看護師国家試験100％合格達成

災害に強い博愛会を目指して

「博愛と信頼、地域と共に、高度な医療」を理念に掲げ、社会医療法人として認定10周年を迎えました。平成27年の中央棟新設、更には東棟の改築と益々発展を遂げております。

災害医療は社会医療法人として要件の一つであることから、中央棟新設を機に同年11月「災害医療マニュアル」及び「消防計画」の全面改訂、BCP（事業継続計画）の見直し等防災の基盤作りを進めているところです。

また災害派遣医療チームAMAT を、平成29年2月に県内初として立ち上げ、翌年8月には栃木県DMATの資格を取得、いつ派遣要請があっても対応可能な体制を整えております。

K−DMATには現在医師・看護師・事務員等計14名が所属し、チーム作りの途上にあります。今後災害が予想される那須岳の噴火等を踏まえ、災害に強い博愛会を目指して博愛会と共に邁進していく所存です。

災害医療対策室長兼防災・施設担当　荻島洋一

介護福祉士実務者研修校開校について

栃木県県北地域においても介護人材の確保と介護の質の一層の向上が求められる中で、これらの要求に応えるべく通信教育という形で開校し、平成 29 年 6 月 1 日に 1 期生を迎えスタートを切りました。開校後初めての国家試験で合格者を出すことができ、共に喜んだ事が思い出されます。

介護福祉士国家試験上、介護職の経験と共に必須である実務者研修を受講される方々には経験豊富な方が多く、高い意欲を持って受講されており、要求に応えるより広く深い知識・技術の修得と国家試験合格を視野に入れた研修運営を行うと共に、介護職初心者にも理解しやすいよう配慮することに努めています。

現在 2019 年度受講生の募集を行っています。今後も実務者研修を通して、地域の介護をより良いものにする事が出来ればと考えています。

介護福祉士実務者研修校　遠藤 彰平

地域の子供たちを守るために

当院小児科は、栃木県北地域の小児二次救急当番病院として毎週水曜日に夜間診療（祝日の場合は終日）を行っています。2017 年 9 月～ 2019 年 1 月までに受診したお子さんは 613 名（救急搬送含む）で、地域に住むお子さんだけではなく、那須への旅行者も多く受診されています。当院は小児の入院管理を行っていないため、入院が必要な場合には国際医療福祉大学病院や那須赤十字病院と連携して対応しています。

夜間・休日の診療は決して楽ではありませんが、お子さんやご家族から「ありがとう」「安心しました」という言葉を頂くと、小児科医としてのやりがいを強く感じることができます。これからもお子さんやご家族の笑顔をたくさん見られるように、日中・夜間を問わず丁寧で優しい診療を心がけてまいります。

小児科　八木 正樹

10年のあゆみ

社会医療法人 博愛会

2018年　2019年

4月1日
脳神経外科、放射線科常勤医師着任

1月1日
「社会医療法人」認可10周年

2月13日

産科にて通算 540 人目の
赤ちゃん誕生

4月1日
東棟リニューアルオープン

脳神経外科開設にあたって

昨年4月より脳神経外科に勤務しております田中裕一と申します。私は1980年に自治医科大学を卒業し、地域僻地医療に従事したのち、これまで3次高度救急救命センターをかかえる大学病院に勤務し、高難度の手術や緊急手術などに24時間対応する体制でやってきました。

現在は当病院に脳神経外科医は私一人だけですので、治療内容に限界があると感じていますが、今後は脳外科医を増員し、手術器械、検査器械やスタッフの充実をはかり、これまでの経験を生かして、この県北地域の医療に微力ながらお役に立てるように努力していきたいと考えております。

脳神経外科　田中 裕一

放射線科を充実させます

当院は、旧黒磯市や旧西那須野町、那須町を中心とした医療圏で、中規模以上の病院が少ない中、悪性、良性疾患の区別無く診療を行う医療機関です。医療機関が少ない為、必然的に、充実した医療資源の提供を地域から求められるのですが、私が赴任するまでは、放射線科常勤医がおらず、放射線科に関しては、リアルタイムの診療が困難でした。非常勤医師の主業務は、画像の読影となってしまいます。常勤医は、読影業務以外にも、放射線科環境整備への尽力も必要とされます。横断的な診療科である放射線科をより良く出来るように、読影、放射線科環境整備業務いずれに対しても、微力ではありますが、努力してまいる所存です。

放射線科　結城 健生

新たな時代も信頼される病院であり続けるために

博愛会にとって社会医療法人に移行し丸10年という節目の年に、新天皇の即位・改元という時代の節目を迎え、偶然にもこの二つが重なったことは実に感慨深いものがあります。社会医療法人としてのあるべき姿を改めて考えるとともに、平成元年建築の東棟をリニューアルしました。改修にあたって第7回医療機関債を発行したところ、地域住民から予定額の3倍を超えるご協力を頂きました。これまでの博愛会に対する信頼の証しであり、しっかり病院を経営する責任の重さを感じています。来る新しい時代においても、地域の皆様のご期待にお応えし、より地域から信頼される病院であり続けるべく、今後とも診療体制の維持・拡充を図って参りますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

博愛会事務局長　藍原 隆

菅間記念病院 新院長
竹内 丙午

聖武天皇の改元

菅間記念病院の中央病棟に入院するならば、西向きの病室の方がいいよと言われています。窓からの眺めはまるで観光ホテルの一室のように素晴らしく、那須の山がたいへん美しく見えます。私は、那須の山は黒磯のこのあたりの４～７階ぐらいの高さから、快晴の冬の日の午前10時ごろが最も美しいと思います。毎朝病室を回る時、入院されている患者様と、見ているだけで病気も良くなりそうだねと、那須の山の美しさを讃えあうこともあります。

では、東向きの病室に入院したらはずれなのでしょうか。いいえ、東向きの病室からは八溝山系の主峰、茨城県の最高峰である八溝山を眺めることができます。とてもなだらかな稜線を描く山で山容はそれほどではありませんが、平成からの改元が間近となった今、奈良時代の日本に思いを馳せることができます。相次ぐ疫病、天災、飢饉に苦しめられていた聖武天皇は、奈良の大仏（東大寺盧舎那仏）の建立を思い立ちます。しかし予算不足で困窮していたところ、陸奥の国に金山が見つかったという報せがあり、銅を国中から集めて大仏を造ることができたのです。天皇は、陸奥の八溝山で金が産出されたことをいたく喜び、元号を天平から、日本で最初の4文字の元号である天平感宝へ改元しました。東の窓から見える八溝山は、重要な国家事業を可能にした、古代日本の国家予算を支えたありがたいお山なのです。

さて、国家予算からも自治体予算からも補助されない民間病院である菅間記念病院は、地域の皆様が購入された医療機関債のおかげで、東棟を全面改修できました。皆様のおかげで新病棟をもてたことを忘れずに、皆様のための病院として、この地域の診療所・病院と密に連携し、その役割を果たしていかなければなりません。新年度からは病院の体制も新しくし、私自身の責任も重くなります。どうぞ病院へのご意見、ご要望などをお知らせください。皆様からのご指導ご鞭撻が、病院をより安全で快適な医療の場へと導きます。なお、東棟の新しい病室も半分は西向きで、那須の山がとてもよくご覧になれますことを申し添えます。

手術中

病棟から那須連山を臨む

名誉院長就任のご挨拶

名誉院長
鈴木　正徳

この度、理事長・山崎範子先生および理事長代行・菅間博先生のご高配により名誉院長を拝命することとなりました。私の後任としては大学の後輩の竹内丙午先生が昇任します。私も本年で齢65歳の準高齢者の仲間入りをいたします。思い起こせば、東北大学第一外科で18年にわたり肝胆膵外科の研究に没頭し、2002年10月に当時の理事長で、医局の大先輩であった故菅間恒先生のお誘いを受け、48歳で院長に就任させていただきました。当時は医師数も12名ほどと少なく、自分の専門を中心にプレイングマネージャーに徹しようと考えました。職員も一丸となって最大限の協力をしてくれたのです。以後、菅間記念病院が右肩上がりの発展をしたのは周知の通りで、敷地内に新築・改築の槌音の響かなかった年はなかったように思います。そのすべてに采配をふるわれた現理事長代行の菅間博先生の御慧眼には脱帽するかぎりであります。

すでに院長として17年間陣頭指揮をして参りました。その間にさまざまな医療のパラダイムシフトを経験しました。ピロリ菌の除菌やC型肝炎ウイルスに対するインターフェロン・フリー治療、癌の遺伝子変異から薬剤を選択するプレシジョン・メディシンなどは癌患者の生存率を向上させ、鏡視下手術の普及は外科手術全体の成績を飛躍的にアップさせました。人工知能は診断と治療体系を変え、全人類の知能の総和を超えるシンギュラリティ（技術的特異点）も目前に迫っています。変革の医療界は、平成元年世代がトップで平成10年世代が実動部隊として汗をかく構造になってきました。柔軟な頭を持った新院長を中心に、本院を名実ともに地域の基幹病院に成長させることが求められているのです。私も新院長をサポートして本院の将来を見極めたいと思っております。私自身はマグロやカツオなどの回遊魚と同じて動いていないと酸欠になってしまうような性格です。ここで院長の重責を解いていただくことで自身のワーク・ライフバランスを再考してみようと思います。しかし“老兵は死なず”、今後とも黒磯・那須地方の地域医療に精進する所存ですので、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2002年院長就任の挨拶

我ら医療人

病棟回診

菅間記念病院 新看護部長
阿久津　恵美

社会医療法人10周年および東棟リニューアルオープンに寄せてご挨拶

博愛会は昭和39年開業以来、「博愛の精神」「信頼」を理念に、地域と共に生きるホーム・ホスピタルを目指し地域住民のみなさま、また観光においでの方々など、「いつでも・どこでも・だれでも・安心・安全」をモットーに日夜努力しております。

国内の医療情勢や地域医療構想を踏まえ、県北地域の特性を理解し強みを活かせるよう院内の職種だけでなく、近隣の開業医の先生方、訪問診療、訪問看護ステーション、ケアマネージャーをはじめ各医療機関・施設の方々などと連携を強化し、「患者中心の医療・看護・介護支援」が展開できますよう心して対応してまいります。

看護部といたしましては、併設の那須看護専門学校はじめ看護師・助産師・保健師など複数の看護職養成校の実習場としての役割を果たしながら、私ども職員も改めて看護の基本に立ち返る機会となり、看護の質の向上や教育に研鑽を積ませていただいております。

また4年前の新棟開設を機に産婦人科をスタートし、お陰様で550名を超える出産件数となりました。女性特有の治療・検査・関連医療機関・育児ケア・行政への連携も多く対応させていただいております。今後は病児保育や子育て支援、乳幼児教育など病院機能だけではない取り組みにも活動を広げる予定です。

こうした診療科の拡大や新事業に柔軟に対応しつつ、救急から回復期に至るリハビリ・療養・在宅へと「つながる」関係を重視したいと考えます。看護にあたっては、一人一人がホスピタリティ精神を持ち合わせ、人として自己成長し、温かみのある豊かな感性を持ち合わせた実践力の高い医療人の育成を目指します。当院を選んで良かったと思っていただけるよう更に努力いたします。また働く職員の職務満足度の高い職場環境に近づけるよう改善・調整に努力いたします。

健康維持増進のための予防ケア・リフレッシュプログラムをご利用いただくことにより生き生きとした暮らしのサポート、地域で新しい命を育み、成長し長きにわたりこの地域で生活していけるよう、多職種の連携を強化し、「地域で支える医療・介護」、そして「人生の最終段階」へのサポートを含め実現できるよう邁進いたします。今後とも博愛会をどうぞよろしくお願いいたします。

病棟に季節感を

スタッフとともに

東棟リニューアル

社会医療法人の認可から10周年。博愛会は在宅医療・予防医療および少子高齢化などの社会状況に対応すべく、東棟をリニューアルしました。

生きがいをもった生活支援を目的として「介護予防センターぴんぴんアカデミー」、訪問診療と訪問看護をいっそう連携させた「在宅医療センター」、在宅療養の方の緊急時に対応できる「在宅療養後方支援病院」の病床、働くお父さんお母さんの支援は「病児保育」、赤ちゃんがすくすく育ってほしいから「ベビービクス」、そして世代を超えて利用したい健康増進施設「ウェルネスNASPA Ⅱ」など。

かつての外来・入院病棟は、いくつもの新しい機能を備えた複合施設に生まれ変わりました。

ウェルネスNASPA Ⅱ

病児保育室

ぴんぴんアカデミー

東棟フロアガイド

5階	ウェルネスNASPA Ⅱ		
4階	ベビービクス	会議室１・２	
3階	東棟３階病棟 E3（25床）		
2階	在宅医療センター		リハビリテーション室
	菅間在宅診療所	ほほえみ訪問看護ステーション	
1階	介護予防センター　ぴんぴんアカデミー		病児保育室

菅間在宅診療所開設にあたって

菅間在宅診療所 所長　黒崎　史果

私は東京で在宅医療に従事する傍ら、平成20年から菅間記念病院の非常勤医として勤務を始めました。結婚を機に平成23年6月から那須塩原クリニックの常勤医となり在宅医療部門を任され、7年の年月が過ぎました。はじめは施設や道路の名前はもちろん、他医療機関や介護事業所の知識も皆無であり、当時往診に同行してくれた諸田看護師に手取り足取り教わりながらの道中でした。その後、小針看護師、梶野看護師へと同行者が変わりましたが、私が産休で不在の際もしっかりと在宅医療部門を支えてくれました。彼女たちのお陰で徐々に地域の皆様から患者様をご紹介頂けるようになり、現在では一般在宅患者約80名、施設入居患者約70名(7施設)を担当しています。平成29年からは往診同行も齊藤看護師、藤田看護師の2名体制となりましたし、生澤史江先生と黒崎史朗先生にも往診をお願い出来るようになりました。夜間休日の看取りや急変時対応は菅間記念病院の先生方や渡部貴士先生はじめ、多くの方に支えられていることを実感します。

また、事務部門も、大量かつ多岐にわたる仕事を丁寧に処理してくれます。診療報酬改定の多い在宅部門ですが、年に１度は在宅医療の診療報酬にまつわる全国模試にも挑戦し、年々、その点数を上げてきました。今後は橋戸さんが中心となって事務部門を担うことになり、忙しく走り回っている背中を頼もしく感じております。

この度、那須塩原クリニックから在宅医療部門が独立し、菅間医療センター２階に菅間在宅診療所として新設されます。隣室にはほほえみ訪問看護ステーションが設置され、より一層、連携が取りやすくなります。もちろん在宅医療には他医療機関や介護事業所、行政等との連携が欠かせません。今後も担当者会議・地域ケア会議・勉強会等に積極的に参加し、顔だけではなくお人柄の分かる関係を作っていきたいと思っています。患者様、ご家族様、地域の皆様に必要とされる、愛される医療機関を目指します。どうぞよろしくお願い致します。

訪問診療・訪問看護スタッフと黒崎史果Dr.（前列中央）

生澤史江Dr.

黒崎史朗Dr.

在宅総合ケアセンターが変わります！

センター長　金谷さとみ

在宅総合ケアセンターでは様々な介護サービスを提供しており、主に那須町、那須塩原市在住の550名ほどの要支援、要介護高齢者が利用されております。開設当初からリハビリテーションに力を入れてきましたが、利用者が増加するとともにニーズも多様化し、目的を明確にした効果的なリハビリテーションを提供する必要性に迫られていました。そこで在宅総合ケアセンターでは、平成31年4月から東棟1・2階に機能を移設（ほほえみ訪問看護ステーション）および新設（通所リハビリテーション事業所）し、従来の機能を再編することになりました。

1．目的別の通所リハビリテーション

在宅総合ケアセンターの通所リハビリテーション事業は、4月から3つに分けてサービスを提供します。既存の「通所リハビリテーションセンター」では、ADL（日常生活動作）に介助が必要な中重度者を対象とし、しっかりと個別リハビリテーションを行うことでADLを維持し、在宅生活における介護負担を軽減することを目的とします。

東棟1階の介護予防センター「ぴんぴんアカデミー」は、ADLが自立している軽度者を対象とし、転倒予防のための体操教室、認知症予防のための家事練習、知識向上のためのミニ講話などを行い、ぴんぴんと生きがいを持った生活支援を目的とします。「短時間デイケア」では、外来リハビリの継続を希望する方のための受け皿として、病院リハビリテーション室での介護保険制度における個別リハビリテーションを行います。新たなプログラムでより良いサービスを提供しますので、よろしくお願いいたします。

2．医療と介護の新たな連携のありかた

現在、医療と介護の連携が重視され、全国で様々な取り組みが行われています。当院では、いち早く連携を重視する大規模多機能の在宅総合ケアセンターを作り、その機能は全国に先駆けて非常に充実しております。しかし、今回の再編により、さらに上質な連携が図れるよう、病院と共に模索したいと考えております。「連携」といっても医療や介護の専門職のためではなく、「患者様や利用者様を中心とした最も良質な連携」を目指し、前例に惑わされずゆっくり検討していく所存です。

通所リハビリテーションセンターで
利用者の方たちとスタッフ

マシントレーニングの様子

通所リハビリテーションセンタースタッフと
金谷センター長（前列中央）

子育て支援と在宅療養支援

事務次長　白石　英子

地域における人口減少は地域発展の妨げとなります。その主因である少子化・高齢化は那須地域でも例外ではありません。そのような背景のもと、労働者不足解消のため働き方が多様化する中で、延長保育や一時預かり保育、夜間保育、病児保育といった、多様な保育ニーズが高まっています。

当法人ではこうしたニーズに応え、法人内で働くお父さんやお母さんのため、昭和50年より「かんま保育所」を運営してきました。このほど、子育て支援の充実を図っていくことが地域の発展に重要と考え、また那須塩原市や那須町からの要請もあり「かんま保育所」を拡張し、東棟1階に病児・病後児保育を行う「病児保育室」を開設しました。職員の家庭だけではなく、お子さんが病気の際に自宅での保育が困難な、那須塩原市及び那須町にお住いの就労している保護者、または那須塩原市及び那須町の企業で働く保護者を支援いたします。

また、当院は、周辺地域の在宅医療を支えるべく「在宅療養後方支援病院」として在宅にて療養をされている患者様が、急に体調を崩されるなど、“緊急時”にいつでもスムーズに受診・入院ができるよう、東棟３階病棟の一部を在宅療養後方支援病棟として用意いたしました。地域のかかりつけ医療機関と連携しながら“24時間体制”で行い、病気を持つ方が安心して、少しでも多く自宅で過ごせることを支援いたします。

「かんま保育所」は昭和50年より運営。

端午の節句

公園でおやつタイム

4月オープン予定の病児保育室

ハロウィン

お昼寝

データで見る博愛会

2015年4月中央病棟新設に伴って屋上に設置されたヘリポートの使用実績、博愛会の職員構成、外来患者や入院患者数の推移、毎年実施されている海外研修、ウェルネスNASPA会員数――。

社会医療法人博愛会の10年の確かな足どりをデータで追ってみました。

菅間記念病院屋上ヘリポート使用実績

年	月　日	曜日	機体種類	着陸時間	離陸時間	概　　要
2015年	5月16日	土	栃木県 Dr ヘリ			菅間記念病院から獨協医大への転院搬送
	5月23日	土	県消防防災ヘリ	16:57	17:00	山岳救助傷病者を受け入れ
	5月31日	土	県消防防災ヘリ			那須岳で登山者が頭部を負傷
	9月27日	日	県消防防災ヘリ	13:18	13:25	那須岳で登山道から滑落負傷
	9月28日	月	県消防防災ヘリ	11:35	11:40	登山中に転倒し、負傷
	9月30日	水	福島県防災ヘリ	12:30	12:35	登山中に転倒し、足を骨折の疑い
	10月3日	土	県消防防災ヘリ	9:35	9:40	登山中に気分が悪くなる
	10月4日	日	県消防防災ヘリ	13:40	13:45	登山中に転倒し、頭部を負傷
	10月5日	月	県消防防災ヘリ	12:44	12:46	登山中に転倒し、右足首骨折の疑い
	10月10日	土	県消防防災ヘリ	9:39	9:43	朝日岳で転倒し、左足首負傷
	12月17日	木	栃木県 Dr ヘリ	11：00頃		菅間記念病院から自治医大への転院搬送
2016年	1月12日	火	栃木県 Dr ヘリ	12:24	12:44	菅間記念病院から獨協医大への転院搬送
	5月22日	日	県消防防災ヘリ	12:00	12:08	登山中に転倒し、右脛骨遠位端骨折
	6月14日	火	栃木県 Dr ヘリ	11:35	11:37	腹部大動脈瘤破裂、獨協医科大学日光医療センターに転院搬送
	7月11日	月	県消防防災ヘリ	11:35	11:37	登山中に転倒し、右足首捻挫
2017年	3月16日	水	福島県 Dr ヘリ			登山者の男性、前額部・膝擦過打撲。福島県 Dr ヘリで当院へ
	5月17日	水	栃木県 Dr ヘリ	10:10	10:20	重症狭心症、うっ血性心不全の患者、獨協医大へ転院搬送
	6月2日	金	県消防防災ヘリ	14:20	14:25	低体温症の登山者
	6月16日	金	栃木県 Dr ヘリ	10:26	10:37	機械に左手を巻き込まれ第1～第4指離断
	9月9日	土	県消防防災ヘリ	14:14	14:17	登山者の男性、腓骨脛骨骨折
	9月30日	土	県消防防災ヘリ	15:45	15:50	釣りで転落し、右足関節三果骨折
	10月2日	月	県消防防災ヘリ	16:20	16:28	登山者が滑落し、右腓骨・趾骨骨折
2018年	2月24日	土	栃木県 Dr ヘリ	8:50	9:02	急性心筋梗塞で転院搬送
	6月9日	土	栃木県 Dr ヘリ	14:12	14:22	ＡＡＡ切迫破裂の疑い、転院搬送
	8月15日	水	栃木県防災ヘリ	12:20	12:25	登山者、腓骨幹部骨折の疑い。
	8月22日	水	埼玉県防災ヘリ	15:51	15:55	登山者、熱中症の疑い。

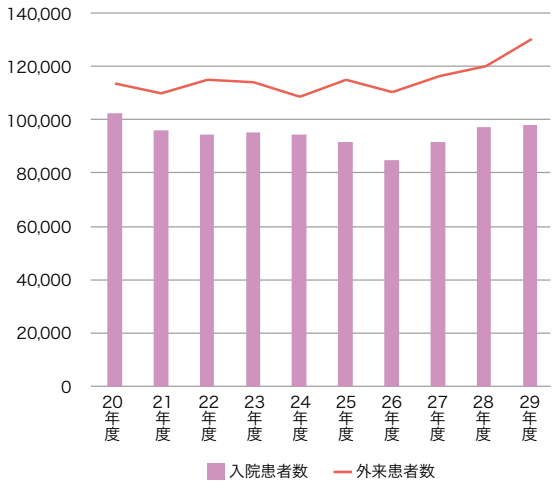
職員構成

（平成31年2月1日現在）

医　　師	27
技　　師	91
助産師	12
看護師	154
准看護師	45
介護福祉士	20
ヘルパー	22
看護助手	24
現　　業	16
事　　務	72
教　　員	10
学　　生	1
合　　計	494

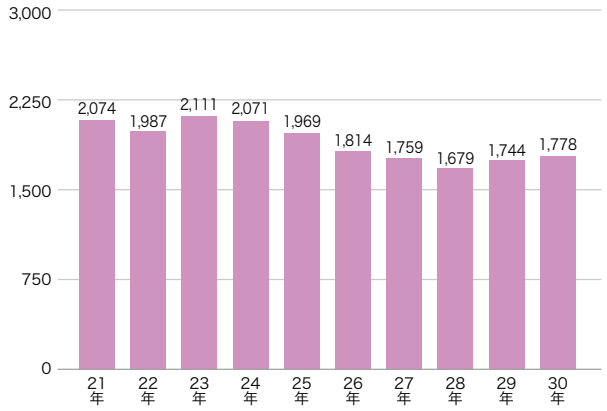
※デルコラソン職員を除く

外来患者数と入院患者数

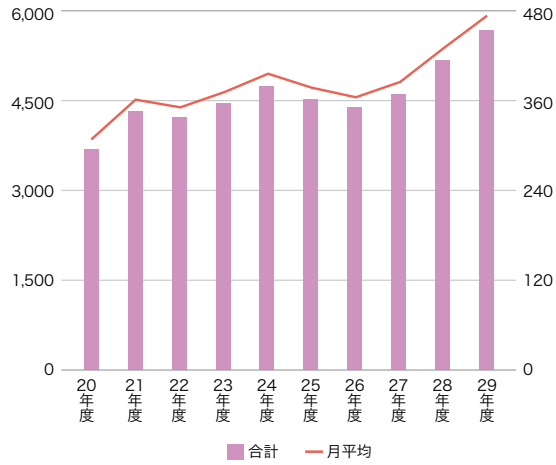


救急車受入患者数

（データは年単位で集計）



ウェルネスNASPA会員数



海外研修

和暦	行き先	主な都市
平成 29 年	オーストラリア	ケアンズ
平成 28 年	ベトナム	ホーチミン
平成 27 年	フィリピン	
平成 26 年	モンゴル	
平成 25 年	マレーシア	クアラルンプール
平成 24 年	沖　縄	
平成 23 年	オーストラリア	シドニー
平成 22 年	オーストラリア	ケアンズ
平成 21 年	オーストラリア	ゴールドコースト
平成 20 年	シンガポール	

平成24年は海外研修予定先の情勢悪化により、急きょ沖縄研修になりました。

2019年4月1日　菅間記念病院東棟に
ウェルネスNASPAⅡが新しくOPENします！

NASPA
WELLNESS

ウェルネスNASPAⅡ

いつまでも健康でいたいから……
生活習慣病や介護予防にも運動は欠かせません。

病院内のジムだから……
安心・安全なメディカルサポートが受けられます。

- 広いジムスペース
- 機能的なスタジオ
- ゆっくりくつろげるラウンジスペース
- 汗を流せるシャワースペース

ウェルネスNASPAは、医療法第42条に定められた疾病予防型運動施設です。
医師の管理のもと、専門スタッフが正しく安全な運動を指導いたします。

ベビービクスも始めます！

歌や音楽に合わせたスキンシップやマッサージを通して、
赤ちゃんとママがリラックスできるプログラムです。

ウェルネスNASPAⅡ
菅間記念病院 東棟5階

お問い合わせ
TEL 0287-73-5936

4月1日
オープン

菅間介護予防センター
ぴんぴんアカデミー

「運動や体操を継続して、**ぴんぴん元気に歩き続けたい**」

「**認知症を予防**できる方法はないかしら？」

「また**買い物や料理ができるようになりたい**」

希望をかなえられる方法があるはず！！

1人ひとりに合った介護予防を理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門家と一緒に学んで、選んで、実践できる学びの施設（アカデミー）を開設いたします。

有酸素運動をしながら脳活性トレーニング!!

国立長寿医療研究センター

認知症予防
コグニバイク

最新トレーニングマシン

送迎サービスが付いてます

※**要支援・要介護認定者**と**介護予防生活支援サービス事業該当者**を対象とした通所リハビリテーションです。

プランの例（あくまで一例です）

転びやすくなった…

元気に歩けるようになりたい

9:00	送迎
	健康チェック
	マシントレーニング
	休憩
	認知機能改善コグニバイク
	バランス向上教室（バランス運動・ミニ講話）
	休憩
	ビデオ体操
12:00	送迎

ムセる…
やせてきた…

安全に食べられるようになりたい

9:00	送迎
	健康チェック
	マシントレーニング
	休憩
	口腔機能向上教室（嚥下体操・ミニ講話など）
	休憩
	ビデオ体操
	摂食練習 兼 昼食　口腔ケア
	休憩
13:00	送迎

菅間介護予防センター
ぴんぴんアカデミー
菅間記念病院 東棟 1 階

TEL 0287-73-5931
FAX 0287-73-5932

菅間記念病院

〒325-0046　栃木県那須塩原市大黒町 2-5
TEL 0287-62-0733　FAX 0287-63-9357

東　　棟

●ぴんぴんアカデミー
TEL 0287-73-5931　FAX 0287-73-5932

●病児保育
TEL 0287-73-5939

●ほほえみ訪問看護ステーション
TEL 0287-63-5690　FAX 0287-73-5935

●菅間在宅診療所
TEL 0287-73-5934　FAX 0287-73-5935

●ウェルネス ナスパⅡ
TEL 0287-73-5936

在宅総合ケアセンター

〒325-0046　栃木県那須塩原市大黒町 2-5
TEL 0287-62-3311　FAX 0287-62-3441

那須塩原クリニック

〒329-3131　栃木県那須塩原市前弥六 51-1
TEL 0287-67-1570　FAX 0287-67-1572

ウェルネス NASPA

〒329-3131　栃木県那須塩原市前弥六 51-1
TEL 0287-67-1577　FAX 0287-67-1575

那須看護専門学校

〒329-3131　栃木県那須塩原市前弥六 54-1
TEL 0287-67-1188　FAX 0287-67-2280

はくあい　社会医療法人博愛会 10 周年
東棟リニューアルオープン記念号

発　行　日　2019 年 3 月 30 日
発　行　者　社会医療法人 博愛会
〒325-0046　栃木県那須塩原市大黒町 2-5
TEL 0287-62-0733
制　　作　株式会社めでぃあ森
〒102-0074　東京都千代田区九段南 1-5-6 りそな九段ビル 5F
TEL 03-6869-3426